

電材卸協組と工組三役との意見交換会

1. 日 時：平成28年8月24日（水） 午後3時00分～午後7時00分
2. 場 所：クーポール会館
3. 意見交換会 テーマ
 - ・電気工事業界の現状と課題・将来展望について
 - ・電材卸協組と工組との連携について
4. 出席者：深瀬和彦（県電材卸協組理事長）、菊井信之（県電材卸協組副理事長）
鯛島良啓（県電材卸協組副理事長）、勝又 信（県電材卸協組事務局長）
松田良克（工組理事長）、長谷川吉昭（工組副理事長）、
天野裕介（工組副理事長）、岩堀英治（工組専務理事）、
田中 進（工組事務局長）

<静岡県電設資材卸業協同組合>



深瀬理事長



菊井副理事長



鯛島副理事長



勝又事務局長

<静岡県電気工事工業組合>



松田理事長



長谷川副理事長



天野副理事長



岩堀専務理事

<現状と課題、将来について>

LED照明や新型空調機器の節電効果が大きいとして伸びており、補助金の獲得も順調である。ただ、制御部品業など電気業界でない業者がエアコンや照明の取付などを行う事例も増えている。直接工場などの需要家にアタックしているようである。

県工組としては県内の自治体に「感震ブレーカの設置助成」を働きかけているが、感震ブレーカのみを既存の住宅に設置しようとしてもメーカーが合わない部品が合わず取り付けることができない。卸業としても部品在庫の増加につながるの困っている。メーカーと話をしてみたい。

ここ何年か廃業する工事業業者が、増えている。高齢の社長が亡くなると継ぐ人がいないのも大きな要因である。廃業されるとそれまでの取引実績が一挙に0になってしまうので、電材卸としても頭が痛い問題である。

震災等緊急時の材料の在庫状況はVAなど一般の材料は10日～15日程度、電池は消費期限があり多くは持ちきれない。浜松では電池などについてはコンビニの在庫を当てにしている。

その他社員採用や教育等、多岐にわたって意見交換を行った。